

オオバン、バンの見分け方&情報求む！！

オオバン（調査対象種）とバンは、両種とも県内の湖沼河川で見られるツル目クイナ科の留鳥であり、似ている両種の見分け方を紹介します。また、近年、バンの生息数が減少しているともいわれていますので、バンの発見情報も報告をお願いします。



オオバン

額板もクチバシも白い
体は一様に黒い
足が太短く、濁った黄色
指が短く平たくなっている
ある程度深い湖沼に多い
冬に大群となる
頻繁に潜水する



バン

額板が赤く、クチバシが黄色い
脇腹に白線、下尾筒も白い
足が長く、明るい黄色
指が非常に細長い
浅く水生植物が多い池を好む
群れにはならない
水に潜らない

千葉県環境研究センター環境学習コーナー企画展「生物多様性ってなんだ!？」において、調査団の報告写真を展示中！！

今年が国連の定めた「国際生物多様性年」です。そこで、多くの方に生物多様性を知ってもらうために、わたしたちが生物多様性の保全のためにできることや当センターの取り組みを説明する展示を行なっています。

千葉の生きもののにぎわいとつながりを表わすため、団員からの報告写真の一部を『生命輝く生きものたち』と題して、壁面いっぱい展示しています。

期間：平成22年7月23日（金）～10月29日（金）土日祝日は休館 午前9時から午後4時半

場所：千葉県環境研究センター 市原市岩崎東1-8-8 JR五井駅西口徒歩15分（開催チラシ参照）

調査団の現地研修会で「磯の生きもの」を観察

現地研修会を、大潮の5月30日（日）に県立中央博物館分館海の博物館の協力を得て、勝浦市の海中公園の磯で開催しました。テーマは「初夏の海辺の生きものを知ろう、磯の生きものを観察しよう！」で、51名の参加がありました。詳細は当センターのニュースレターで報告しています。団員からは、「磯・海辺には多くの生きものが生息していることを初めて知った。」「生きものへの熱い想いの解説を聞きながら観察し、展示や飼育室を見て、千葉の海の多様性がわかった。」などの声が寄せられました。 <観察した生物> スベスベマンジュウガニ（調査対象種）、ヒライソガニ、アメフラシ、ウミウシ類、ヨロイイソギンチャク、ニホンクモヒトデ、イソギンポ、ウツボ、イソヒヨドリ、モリアオガエルの卵塊 他



最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、調査団のホームページをご覧ください

「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>と「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/>

アマサギの生息情報を求めています！

アマサギ（調査対象種）の生息情報を求めています。また、“白サギ”を見ましたとの報告が時々ありますが、シラサギという種はないので、アマサギと同じ位の大きさの白いサギとの見分け方を紹介します。

<アマサギ、チュウサギ、コサギの見分け方> 手持ちの鳥類図鑑等でも特徴を確認してください。

	アマサギ	チュウサギ	コサギ
クチバシ	オレンジに近い黄色	冬は黄色、夏は黒色	黒色
頭部	頭から頸・胸にかけてオレンジ	冠羽は無い	夏は頭部と背中に飾り羽
体型	ずんぐりしている	ずんぐりしている	スマート
足	全体が黒い	全体が黒い	黒色で足指だけは黄色

夏季



冬季



- ・アマサギ（全長50cm）は、主に昆虫を食べるため水にはあまり入らない 冬羽は全身白色となる
- ・チュウサギ（全長68cm）は、昆虫、カエルからザリガニやドジョウなどを食べるため水田に多い
- ・コサギ（全長61cm）は、小魚を足で追い立てて捉えるので浅い水辺に多い
- ・白い大きなサギでは、ダイサギ（全長89cm）がいる 全身白色で首も長い 長い足で水中に立ち、魚を食べる。
- ・サギの仲間では、アオサギ、ゴイサギ、ササゴイ、ミゾゴイ、ヨシゴイ、サンカノゴイ、クロサギも生息している

季節報告

今年の梅雨は、関東甲信地方は6月14日ごろに梅雨入りしたと見られ、平年（6月8日ごろ）に比べて6日遅く、昨年（6月3日ごろ）に比べて11日遅い梅雨入りでした。

梅雨明けは、関東甲信地方は7月17日ごろに梅雨明けしたと見られます。

平年（7月20日ごろ）に比べて3日早く、昨年（7月14日ごろ）に比べて3日遅い梅雨明けでした。

梅雨明け直後からは、太平洋高気圧に覆われ、連続して猛暑が続いています。

観察時には、熱中症対策（飲み物、帽子）と安全に気をつけてください。

ツバメの初飛：3月3日から

始まり報告数63件

ホトギスの初鳴き：

5月14日から始まり45件

<これからの生物報告>

リンドウ、ヤマトタマシ

ナガサキアゲハ（右写真参照）

クマゼミ（シャオシャオシャオ大きな鳴き声）

調査団設立から2年が経ちました。

調査団員550名、報告件数累計6,000

今後とも調査報告をお待ちしています。

